

薩摩硫黄島の火山活動

(1) 平成31年・令和元年の概況

薩摩硫黄島では、硫黄岳で、11月2日17時35分に噴火が発生した。噴火に伴う灰白色の噴煙が火口縁上1,000mをわずかに超える程度まで上がったが、火砕流や噴石は観測されなかった。硫黄岳山頂火口では、白色の噴煙が概ね火口縁上1,000m以下（最高は1,500m）の高さで経過した。

11月3日に実施した上空からの観測や、11月5日から7日にかけて実施した現地調査では、噴煙の状況や地熱域の分布などに特段の変化は認められなかった。11月6日の現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1日あたり1,300トンと、やや多い状態であった。傾斜計やGNSS連続観測では、火山活動に伴う特段の変化は認められなかった。

その後、噴火はなく、地震や微動の発生状況や地殻変動の状況に特段の変化はないが、夜間に火映が観測され、時折噴煙が高くなるなど、長期的には熱活動が高まった状態が続いた。

火山性地震は、1月（366回）、2月（257回）、3月（195回）、4月（251回）、5月（144回）、6月（150回）、7月（238回）、8月（210回）、9月（222回）、10月（99回）、11月（95回）、12月（114回）で、年合計では2,341回で、前年（3,180回）に比べやや減少した。震源が求められた火山性地震は47回で、硫黄岳付近のごく浅い所から深さ2km付近と南海域5～7km付近に分布した。火山性微動は前年3月17日以降、観測されなかった。

(2) 各月の経過

【1月～2月】

硫黄岳山頂火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上1,500m（1月）及び700m（2月）まで上がり、1月は夜間に高感度監視カメラで火映を時々観測した。

火山性地震は1月に366回、2月に251回あり、少ない状態であった。震源が求められた火山性地震はなかった。火山性微動は観測されなかった。

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化はなかった。

【3月～4月】

硫黄岳山頂火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上800m（3月）及び1,300m（4月）まで上がり、3月26日と27日、及び4月27日と28日の夜間に一時的に高感度監視カメラで火映を観測した。火映を観測したのは、1月31日以来である。

火山性地震は少ない状態で、3月に195回、4月に250回であった。震源が求められた火山性地震は、3月は3回で硫黄岳付近の深さ0km付近、4月は6回で硫黄岳付近の深さ0～1km付近であった。火山性微動は観測されなかった。

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化はなかった。

【5月～9月】

硫黄岳山頂火口では、白色の噴煙が、5月、6月、8月は最高で火口縁上1,000mまで、7月は同1,300m以上に、9月は1,100mまで上がり、高感度監視カメラで微弱な火映を時々観測した。

火山性地震は、5月に144回、6月に150回、7月に238回、8月に210回、9月に222回あり、少ない状態であった。震源が求まった火山性地震は、5月に1回、6月に6回、7月に19回、8月に4回、9月に6回あった。その震源は、5月、6月、8月はいずれも硫黄岳付近の深さ0km付近、7月は硫黄岳付近の深さ0～1km付近と硫黄岳山頂火口から南に約3kmの深さ5～6km付近、9月は硫黄岳付近の深さ0～1km付近に分布した。火山性微動は観測されなかった。

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化はなかった。

【10月～12月】

硫黄岳山頂火口で、11月2日17時35分に噴火が発生し、灰白色の噴煙が火口縁上1,000mをわずかに超える程度まで上った。この噴火に伴う火砕流や噴石は観測されなかった。薩摩硫黄島の噴火は平成25年6月5日以来。11月3日の上空からの観測や、11月5日から7日の現地調査では、噴煙の状況や地熱域の分布などに特段の変化はなかった。

白色の噴煙が、10月は最高で火口縁上1,000mまで、11月は同1,300mまで、12月は同1,200mまで上がり、高感度監視カメラで微弱な火映を時々観測した。

火山性地震は少ない状態で経過し10月は99回、11月は95回、12月は114回であった。震源が求まった火山性地震は、10月は1回で薩摩硫黄島の南約3kmの海域の深さ5km付近、11月は2回で硫黄岳火口直下のごく浅い所、12月は1回で硫黄岳火口付近のごく浅い所であった。火山性微動は観測されなかった。

火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は、10月29日と31日に実施した現地調査で300～1,400トンと概ねやや多い状態、11月6日に実施した現地調査で1,300トンとやや多い状態であった。

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化はなかった。

(3) 火山情報の発表状況

令和元年11月2日17時50分 火口周辺警報発表。噴火警戒レベル1(活火山であることに留意)からレベル2(火口周辺規制)に引き上げ。

火山名 薩摩硫黄島 噴火警報（火口周辺）

令和元年11月2日17時50分 福岡管区気象台・鹿児島地方気象台

＊ ＊（見出し） ＊ ＊

<薩摩硫黄島に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を発表>

火口から半径約1キロメートルの範囲で噴火に対する警戒が必要。

<噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に
引上げ>

＊ ＊（本文） ＊ ＊

1. 火山活動の状況及び予報警報事項

硫黄岳では、本日（11月02日）17時35分に噴火が発生しました。灰
白色の噴煙が火口縁上約1000メートル以上に上がりました。

今後、火口から半径約1キロメートルの範囲に噴石を飛散させる程度の小規
模な噴火が発生する可能性がありますので、火口周辺では噴火に対する警戒が
必要です。

2. 対象市町村等

以下の市町村では、火口周辺で入山規制などの警戒をしてください。

鹿児島県：三島村

3. 防災上の警戒事項等

火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴
石に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそ
れがあるため注意してください。また、火山ガスにも注意してください。

＊ ＊（参考：噴火警戒レベルの説明） ＊ ＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（避難準備）】：警戒が必要な居住地域での避難の準備、要配慮者
の避難等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。
状況に応じて要配慮者の避難準備等。

【レベル2（火口周辺規制）】：火口周辺への立入規制等。

【レベル1（活火山であることに留意）】：状況に応じて火口内への立入規制
等。

(注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる)

口永良部島の火山活動

(1) 平成31年・令和元年の概況

新岳では、前年10月以降、2月2日まで断続的に噴火が発生した。この噴火活動の中で最も規模の大きい噴火が1月17日09時19分に発生した。気象衛星画像で新岳火口縁上約6,000mの噴煙を観測し、新岳火口から大きな噴石が飛散するとともに、火砕流が南西側及び北西側へ流下した。2月3日以降、噴火は観測されなかった。

新岳火口付近のごく浅い場所を震源とする火山性地震は2月以降減少していたが、10月には規模の大きな地震が短期間で2回発生し、火山活動が高まった状態となったことから、28日00時15分に火口周辺警報が発表され、噴火警戒レベルが2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げられた。10月に新岳の西側山麓のやや深い場所を震源とする火山性地震が発生し、12月にも新岳火口付近の浅いところを震源とする規模の大きな地震が発生し、12月にかけて時々火山性地震が増加するなど、地震活動が活発化した。

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1月17日までは1日あたり500トン以下とやや多い状態で経過し、1月17日の噴火時には2,200トンと増加した。この噴火以降しばらくは、1日あたり100～1,200トンと不安定な状態で経過した。5月以降、1日あたり20～400トンと減少したものの、概ねやや多い状態で経過した。10月の地震活動の活発化以降は、時々500トンを超えるなど放出量が増加傾向となった。

現地調査では、火口周辺の地形、噴気等の状況、地熱域の温度と分布に特段の変化は認められなかった。

GNSS連続観測では、前年7月頃から停滞していた島内の基線に10月頃からわずかな伸びの変化がみられた。

火山性地震は、1月（466回）、2月（126回）、3月（97回）、4月（46回）、5月（88回）、6月（90回）、7月（36回）、8月（70回）、9月（18回）、10月（63回）、11月（120回）、12月（96回）で、年合計は1,316回であった。

(2) 各月の経過

【1月】

新岳火口では、2日、17日、20日及び29日に噴火が発生し、活発な噴火活動を繰り返した。17日09時19分に発生した噴火（爆発的噴火）では、噴煙が火口縁上500mまで上がり雲に入った。09時40分の気象衛星画像では、火口縁上約6,000mの噴煙を観測した。この噴火に伴い、新岳火口から大きな噴石が飛散するとともに、火砕流が南西側及び北西側へ流下したのを確認した。その後、噴火は同日15時27分頃まで続いた。

17日の現地調査及び上空からの観測では、噴火に伴う火砕流の痕跡が新岳火口から北西側に約1,900m、南西側に約1,600m、東側に約1,000mまで達した。また、大きな噴石が新岳火口から概ね1,000m飛散し、南西側では最大で約1,800m飛散した。この噴火は、前年10月以降で最大の噴火規模であったが、火砕流は集落に達しなかった。

17日の現地調査及び聞き取り調査では、久島町小瀬田の一部で路面が見えにくくなる程のやや多量の降灰があったなど、屋久島町及び南種子町の一部でも降灰が確認された。

新岳火口付近のごく浅い場所を震源とする火山性地震は、17日及び29日の噴火の前後に増加した。月回数は467回と、前月（901回）と比較して減少したが、概ね多い状態で経過した。震源が求まった火山性地震は19回で新岳火口付近の深さ0～1km付近であった。火山性微動は主に噴火に伴って発生した。

新岳の西側山麓のやや深い場所を震源とする火山性地震は観測されなかった。

17日の噴火では、本村東観測点（新岳の北西約2.8km）に設置している空振計で、201Paの空振を観測した。

火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は、17日までは500トン以下とやや多い状態で経過し、17日の噴火時には2,200トンと増加した。この噴火以降は、100～1,200トンと増減が大きい状態で経過した。

GNSS連続観測では、島内の長い基線において、平成28年1月頃から続いた緩やかな縮みの傾向は、前年7月頃から停滞している。

傾斜計では、17日09時19分の噴火に伴い新岳方向がわずかに沈降する傾斜変動が観測された。

【2月】

新岳火口では、2日11時41分に噴火が発生し、噴煙が火口縁上400mまで上がった。その後、噴火は同日13時00分頃まで継続し、噴煙が最高で火口縁上600mまで上がった。

赤外熱映像装置による観測では、新岳火口、新岳火口西側割れ目付近及び古岳火口東側外壁の地表面温度分布に特段の変化は認められなかった。

新岳火口付近のごく浅い場所を震源とする火山性地震は概ね少ない状態で経過し、月回数は125回と、前月（467回）に比べて減少した。震源が求まった火山性地震はなかった。火山性微動は観測されなかった。

新岳の西側山麓のやや深い場所を震源とする火山性地震は観測されなかった。

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1日あたり100～500トンと概ねやや多かった。

GNSS連続観測では、前月と同様に、緩やかな縮みの傾向は停滞していた。

【3月～9月】

新岳火口では、2月3日以降、噴火は観測されなかった。白色の噴煙が、3月と9月は最高で火口縁上600mまで、4月、6月、8月は同900mまで、5月は同700mまで、7月は同1,000mまで上がった。

赤外熱映像装置による観測では、新岳火口、新岳火口西側割れ目付近及び古岳火口東側外壁の地表面温度分布に特段の変化は認められなかった。

新岳火口付近のごく浅い場所を震源とする火山性地震の月回数は、97回（3月）、46回（4月）、88回（5月）、90回（6月）、36回（7月）、70回（8月）、18回（9月）で、少ない状態で経過した。震源が求まった火山性地震は4月に1回、5月に2回、6月に10回、7月に36回、8

月に4回あり、3月と9月はなかった。その震源は、4月は新岳火口付近の深さ0km付近、他は新岳火口付近の深さ0～1km付近であった。火山性微動は観測されなかった。

新岳の西側山麓のやや深い場所を震源とする火山性地震は観測されなかった。

火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は、70～400トン（3月）、100～1,000トン（4月）、80～300トン（5月）、100～300トン（6月と7月）、80～400トン（8月）、80～200トン（9月）で、やや多い状態で経過した。

GNSS連続観測では、前月と同様に、緩やかな縮みの傾向は停滞していた。

【10月～12月】

新岳火口では、噴火は観測されなかった。白色の噴煙が、10月は最高で火口縁上800mまで、11月は同500mまで、12月は同1,100mまで上がった。

10月19日及び28日から29日にかけて山麓から実施した現地調査では、これまでと同様に新岳火口及び新岳火口西側割れ目付近の噴気の状態、地熱域の温度と分布に特段の変化は認められなかった。新岳火口西側割れ目付近には依然として地熱域が存在するものの、平成29年頃から温度の低下した状態が続いていた。11月13日及び26日、12月9日及び23日の山麓から実施した現地調査でも同様であった。

火山性地震は少ない状態で経過していたが、月回数は、10月は63回、11月は120回と前月より増加し、12月は96回であった。火山性微動は観測されなかった。10月は、18日と27日に新岳火口付近の浅いところを震源とする規模の大きな地震（山麓で身体に感じない程度）が発生した。また、18日には新岳の西側山麓のやや深い場所を震源とする火山性地震も9回発生し、新岳火口付近の地震を含めて日回数は18回となり、一時的に多くなった。11月は、3日に20回、15日に15回発生するなど、時々多い状態となった。震源が求まった火山性地震は12回で、主に新岳火口付近の深さ0～1km付近であった。12月は、24日に新岳火口付近の浅いところを震源とする規模の大きな地震（山麓で身体に感じない程度）が発生した。震源が求まった火山性地震は2回で、新岳火口付近の深さ0km付近であった。

火山ガス（二酸化硫黄）の1日あたりの放出量は、10月は20～200トンでやや多く、11月は200～600トン、12月は100～700トンで、時々多い状態になった。

GNSS連続観測では、前年7月頃から停滞していた島内の基線に、本年10月頃からわずかな伸びの変化がみられた。

(3) 火山情報の発表状況

令和元年6月12日11時00分 火口周辺警報発表。噴火警戒レベル3（入山規制）から2（火口周辺規制）に引下げ。

令和元年10月28日00時15分 火口周辺警報発表。噴火警戒レベル2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引上げ

火山名 口永良部島 噴火警報（火口周辺）

令和元年6月12日11時00分 福岡管区气象台・鹿児島地方气象台

＊ ＊（見出し） ＊ ＊

<口永良部島に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を発表>

引き続き小規模な噴火の可能性がありますので、新岳火口から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、新岳火口から西側の概ね2 kmの範囲では、火砕流に警戒してください。

<噴火警戒レベルを3（入山規制）から2（火口周辺規制）に引下げ>

＊ ＊（本 文） ＊ ＊

1. 火山活動の状況及び予報警報事項

新岳火口では、2月3日以降噴火は観測されていません。

新岳火口付近のごく浅い場所を震源とする火山性地震は2月以降減少し、概ね少ない状態で経過しています。新たなマグマの上昇を示すと考えられる、新岳の西側山麓のやや深い場所を震源とする火山性地震は、2018年8月16日以降観測されていません。

火口内の熱の高まりを示す火映は、2018年12月以降観測されていません。山麓からの観測では、新岳火口及び新岳火口西側割れ目付近の噴煙や地熱域の状況に特段の変化は認められていません。

一方、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、4月11日に1日あたり1000トンと一時的に多い状態となりました。その後は減少しましたが、現在も1日あたり100から300トンとやや多い状態が続いていますので、引き続き小規模な噴火の可能性があります。

これらのことから、新岳火口から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。また、新岳火口から西側の概ね2 kmの範囲では、火砕流に警戒が必要です。

2. 対象市町村等

以下の市町村では、火口周辺で入山規制などの警戒をしてください。

鹿児島県：屋久島町

3. 防災上の警戒事項等

新岳火口から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、新岳火口から西側の概ね2 kmの範囲では、火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

＊ ＊（参考：噴火警戒レベルの説明） ＊ ＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（避難準備）】：警戒が必要な居住地域での避難の準備、要配慮者の避難等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。状況に応じて要配慮者の避難準備等。

【レベル2（火口周辺規制）】：火口周辺への立入規制等。

【レベル1（活火山であることに留意）】：状況に応じて火口内への立入規制等。

（注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる）

火山名 口永良部島 噴火警報（火口周辺）

令和元年10月28日00時15分 福岡管区气象台・鹿児島地方气象台

＊ ＊（見出し） ＊ ＊

<口永良部島に火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を発表>

火口から概ね2 kmの範囲では噴火に伴う大きな噴石や火砕流に警戒してください。

<噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げ>

＊ ＊（本文） ＊ ＊

1. 火山活動の状況及び予報警報事項

口永良部島では、10月27日21時33分に新岳火口付近の浅いところを震源とする規模の大きな地震が発生しました。18日にも規模の大きな地震が発生しており、火山活動が高まった状態となっています。

今後、新岳火口から概ね2 kmの範囲、及び向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性がありますので警戒してください。

2. 対象市町村等

以下の市町村では、火口周辺で入山規制などの警戒をしてください。

鹿児島県：屋久島町

3. 防災上の警戒事項等

新岳火口から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲では、火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

＊ ＊（参考：噴火警戒レベルの説明） ＊ ＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（避難準備）】：警戒が必要な居住地域での避難の準備、要配慮者の避難等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。
状況に応じて要配慮者の避難準備等。

【レベル2（火口周辺規制）】：火口周辺への立入規制等。

【レベル1（活火山であることに留意）】：状況に応じて火口内への立入規制
等。

（注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる）

諏訪之瀬島の火山活動

(1) 平成31年・令和元年の概況

御岳火口では噴火が時々発生し、そのうち爆発的噴火は15回(前年は42回)発生した。噴火に伴う火口付近に飛散する大きな噴石を監視カメラで時々確認した。噴火に伴う噴煙の高さは概ね火口縁上1,000m以下で経過したが、時々高くなり、9月10日18時56分に発生した噴火では、火口縁上1,700mまで上がった。同火口では、概ね年間を通して夜間に高感度監視カメラで火映を観測した。

現地調査(3月4日～10日、12月14日～18日)では、噴煙の状況や地熱域の分布などに特段の変化は認められなかったが、12月15日は終日鳴動を確認した。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、同火口による鳴動や降灰が時々確認された。御岳の南南西約4kmの集落で降灰を確認した日数は5日(前年は15日)であった。

火山性地震の年回数は、A型地震1057回、B型地震4251回で、前年より増加した(前年はA型325回、B型972回)。震源が求まった火山性地震は162回で、御岳付近から諏訪之瀬島西方の深さ0～6kmに分布した。

11月以降、諏訪之瀬島付近を震源とする規模の大きな地震が増加した。震度1以上の地震が11月に5回、12月に4回発生し、このうち、11月6日20時11分に発生した地震(マグニチュード2.6)では、島内の震度観測点(鹿児島十島村諏訪之瀬島)で震度3を観測した。火山性微動の年間の継続時間は、1564時間49分(前年は358時間32分)であった。

火山性地震の月回数は、1月(A型地震:13回、B型地震:5回)、2月(A型:17回、B型:8回)、3月(A型:12回、B型:27回)、4月(A型:25回、B型:11回)、5月(A型:11回、B型:148回)、6月(A型:24回、B型:269回)、7月(A型:12回、B型:887回)、8月(A型:6回、B型:2537回)、9月(A型:10回、B型:38回)、10月(A型:28回、B型:212回)、11月(A型:296回、B型:31回)、12月(A型:603回、B型:79回)であった。爆発的噴火は、1月に1回、8月に4回、12月に10回、他の月は0回であった。

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められなかった。現地調査(3月4日～10日、12月14日～19日)による島内GNSS繰り返し観測では、前回(平成29年12月)の観測以降、各観測点の基線長変化において、わずかな短縮または伸長の傾向が継続していることを確認した。

(2) 各月の経過

【1月～2月】

御岳火口では、噴火が時々発生し、そのうち爆発的噴火は1回、1月3日17時27分に発生し、灰色の噴煙が火口縁上600mまで上がり雲に入った。1月は、白色の噴煙が30日に最高で火口縁上1,500mまで上がり、2月は、灰白色の噴煙が2日、22日、26日に最高で火口縁上900mまで上がった。同火口では、夜間に高感度監視カメラで期間を通して火映を観測した。同火口から南南西4kmの集落では、降灰は確認されなかった。

火山性地震の月回数は、1月はA型地震13回、B型地震5回、2月はA型地震17回、B型地震8回で、少ない状態で経過した。このうち震源が求まった火山性地震は、1月は2回、2月は1回で、震源は諏訪之瀬島西方の深さ1km付近に分布した。火山性微動は、1月は観測なし、2月は継続時間1分程度が1回発生した。

【3月】

御岳火口では、ごく小規模の噴火が時々発生したが、爆発的噴火はなかった。30日10時48分の噴火では、灰白色の噴煙が火口縁上800mまで上がった。白色の噴煙が、27日に最高で火口縁上900mまで上がった。同火口では、夜間に高感度監視カメラで期間を通して火映を観測した。同火口から南南西4kmの集落では、降灰は確認されなかった。

火山性地震の月回数はA型地震12回、B型地震27回であり、少ない状態で経過した。このうち震源が求まった火山性地震は3回で、御岳付近と諏訪之瀬島南西の深さ1~2km付近に分布した。火山性微動は観測されなかった。

【4月、7月】

御岳火口では、噴火は観測されなかった。白色の噴煙が、4月は19日に最高で火口縁上1,200mまで、7月は26日に同1,600mまで上がった。同火口では、夜間に高感度監視カメラで火映を時々観測した。

火山性地震の月回数は、4月はA型地震25回、B型地震11回であり、少ない状態で経過した。このうち震源が求まった火山性地震は13回で、御岳付近と諏訪之瀬島南西の深さ1~2km付近に分布した。7月は、A型地震12回、B型地震887回で、先月より増加した。震源が求まった火山性地震は8回で、御岳付近と諏訪之瀬島南西沖の深さ0~2kmに分布した。

火山性微動は、4月には観測されなかった。7月は、5日未明と5日夜から6日明け方にかけて連続して発生し、継続時間の月合計は10時間10分であった。

【5月~6月】

御岳火口では5月5日、30日、31日、6月2日に噴火が発生したが、爆発的噴火はなかった。5月30日16時29分の噴火では、灰色の噴煙が火口縁上1,100mまで上がり、6月2日16時05分の噴火では、灰白色の噴煙が火口縁上900mまで上がった。同火口では、夜間に高感度監視カメラで火映を時々観測した。同火口から南南西4kmの集落で5月30日に降灰が確認された。

火山性地震の月回数は、5月はA型地震11回、B型地震148回、6月はA型地震24回、B型地震269回で、概ね少ない状態で経過したが、5月31日には噴火活動に伴いやや多い状態となった。このうち震源が求まった火山性地震は、5月に3回あり、諏訪之瀬島北西の深さ3~9km付近に分布した。火山性微動は観測されなかった。

【8月】

御岳火口では、主に1日から6日に噴火が発生し、4日には爆発的噴火が発生した。1日と

3日の噴火では、火口付近に飛散する噴石を確認した。4日と26日の噴火では、噴煙が火口縁上1,500mまで上がった。同火口では、夜間に高感度監視カメラで火映を時々観測した。同火口から南南西4kmの集落では、降灰は確認されなかった。

火山性地震の月回数は、A型地震6回、B型地震は1日～18日に多発して2,537回となり、先月よりも増えた。震源が求まった火山性地震は2回で、諏訪之瀬島南西の深さ2kmに分布した。火山性微動は、主に4日から16日に断続的に発生し、継続時間の月合計は137時間45分で先月よりも増加した。

【9月～10月】

御岳火口では、9月10日、16日、30日、10月19日、29日、30日に噴火が発生したが、爆発的噴火はなかった。9月10日の噴火では、乳白色の噴煙が火口縁上1,700mまで上がり、10月30日の噴火では、灰白色の噴煙が火口縁上800mまで上がった。同火口では、夜間に高感度監視カメラで火映を観測した。同火口から南南西4kmの集落では、9月は降灰がなく、10月は19日及び29日に降灰が確認され、25日には鳴動が確認された。

火山性地震の月回数は、9月はA型地震10回、B型地震38回、10月はA型地震28回、B型地震212回であった。震源が求まった火山性地震は10月に1回あり、御岳付近の深さ1km付近であった。火山性微動は、9月は10日、27日、30日に発生し、継続時間の月合計は9分、10月は10～12日、19～31日に発生し、月合計308時間4分であった。

【11月】

御岳火口では、噴火が13回（ごく小規模を含む）発生したが、爆発的噴火はなかった。13日12時35分に発生した噴火は18時00分まで継続し、灰白色の噴煙が火口縁上1,500mまで上がった。また、ごく小規模な噴火が時々発生し、20日には弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口から200mまで達した。同火口では、夜間に高感度監視カメラで火映を観測した。同火口から南南西4kmの集落では、19～20日に降灰が確認され、19～21日、28～29日には鳴動が確認された。

諏訪之瀬島付近を震源とする地震で、島内の震度観測点（鹿児島十島村諏訪之瀬島）で震度1以上を5回観測した。このうち、6日20時11分に発生した地震（マグニチュード2.6）では、震度3を観測した。このほか、同日20時10分、13日07時47分の地震で震度2、3日13時19分、23日23時53分の地震で震度1を観測した。これらの地震発生以後も火山活動に特段の変化はなかった。

火山性地震の月回数は、A型地震は296回で、6日は110回と一時的に増加した。このうち震源が求まった火山性地震は43回で、御岳西側付近から諏訪之瀬島西方付近の深さ0～4kmに分布した。B型地震は31回と減少した。火山性微動は断続的に発生し、継続時間の月合計は596時間6分であった。

【12月】

御岳火口では、活発な噴火活動が続き、噴火が23回（ごく小規模を含む）発生した。そ

のうち爆発的噴火は25日から26日にかけて9回、31日に1回あった。噴火に伴う灰白色の噴煙が最高で火口縁上800mまで上がり、弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口から最大で600mまで達した。白色の噴煙は、最高で火口縁上1,800mまで上がった。同火口では、夜間に高感度監視カメラで火映を観測した。

14日から18日にかけて実施した現地調査では、御岳火口周辺及び火口北側斜面、東側海岸線上部に地熱域が認められ、旧火口やその周辺、御岳の南側山腹に地熱域や噴気等は認められなかった。15日は終日鳴動を観測した。

諏訪之瀬島付近を震源とする地震で、島内の震度観測点（鹿児島十島村諏訪之瀬島）で震度1以上を4回観測した。これらの地震発生以降も、噴煙などの状況に変化はなかった。

A型地震の月回数は603回で、一時的に多い日があった。このうち震源が求まった火山性地震は87回で、御岳火口付近から諏訪之瀬島西方の深さ0～6kmであった。B型地震は79回と増加した。火山性微動は断続的に発生し、継続時間の月合計は513時間5分であった。

※A型地震とは、P相やS相が明瞭で高周波成分が卓越する地震、B型地震とは、P相やS相が不明瞭で低周波成分が卓越する地震である。

※鳴動とは、火口またはその付近に音源を持つ連続的な音響で、特に火山活動に関連して起き、時には振動を伴うこともある。

(3) 火山情報の発表状況

平成19年12月1日10時06分 火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）の発表後、警報事項に変更なし。